

昔探し

ちよっぴり寂しくなったら
深く息を吸って
閉じた目の奥に広がる
昔探ししてみよう

ここはどこの景色だったか
しとしと降る雨の中
顔だけしか覚えていない
友と歩いていた

何も気遣うことなく
ただ笑い合う喜び
心に蘇る
温もりの瞬間

何かが足りなくなったら
心に深くしまわれた
ちよっぴり苦かった思い
昔探ししてみよう

ふとした文字から思い出す
わずかな期間で知り合って
少しだけの語らい
残して別れた人

自分の中でいまだに
解決してない問題
心に残る
葛藤確かめる

ちよっぴり寂しくなったら
深く息を吸って
閉じた目の奥に広がる
昔探ししてみよう

越冬するタテハ

長生きで素早くて
枯葉色の羽の裏

数回羽ばたいて見せた後
真っ直ぐにしっかりと
高く舞い上がる空から
再び降りた

まだ花のない枯れたところ
蜜でない水を吸って
スッと開くいたんだ羽
それでも鮮やかだ

よく見ると顔のそば
畳んだ足が毛に包まれて

まるで人の手と同じように
ただの足ではなくて
器用に生きてる証が
ただものでないこと知る

秋の終わりも最後まで
春まだ浅いこの頃から
スッと開くいたんだ羽
それでもしっかりと

日向ぼっこ

日向ぼっこ 大人になって忘れてたよ

しばらくしてなかった日の光浴びて
少しはなれたところに仰向けになった猫

外出控えてる感染対策
気がついた時には
家の中閉じこもり

このところのストレスも
何かが不足してたから
忙しい大人には
こんなにゆっくりできないよ

心と体にじんわり温かく
ゴロゴロとすることはこんなに素晴らしい

子供の頃には友達とたくさん
こんな広場でゆっくりと過ごした

このところのイライラも
何かが不足してたから
誰かを傷つけて
手遅れにならず良かったよ

日向ぼっこ 大人になって初めて気づく

最後になりやっと思つたことは

最後になりやっと思つたことは
ちょっとしたボタンのかけ違いで
あの時のすれ違いの言葉から
取り返しがきかなくなっていた

どうせこうなることなら
もっと本音を言えばよかった

どうしてこんなことになったんだろう
同じこと考えていたはずなのに
もしかしたら違う価値観だったと
さみしいけど諦めるしかない

どうせこうなることなら
無理に合わせることもなかった
時間が経てばまたいつか
連絡できることあるかな

あかね雲の向こう

お彼岸を過ぎた頃の
朝まだ寒い中で
東空わたるあかね雲

少し前までは暗く
あかりに照らされた道
今は自然の光に

地平線スレスレ
厚い雲のしかかる
まるで昨日 までの
忘れ物のように

でもその向こう
無限の光
思わせる
空いろ包んだ赤く染まる雲

厚い雲途切れた隙間
かすかに見えてた山の
稜線くっきりわかる

普段では気にもしない
思いもよらない形の
シルエット浮き出る

遠くの山 近くの屋根
一つにつながる
まるで人工的なものを
覆ってしまうように

でもその向こう
希望の光
思わせる
空いろ包んだ赤く染まる雲

手塩にかけて

打算ひとつない いくしみに満ちた
その本気さは 行き渡ってくださう
手塩にかけて 作り上げたものは
きっといつか 伝わってくれるだろう

この言葉で あってるかな
思っている このニュアンス
考え過ぎて 感じただけの
ことしか言えなかった

愛しさだけで 突き進むといつか
思い通りに ならないもどかしさ
気持ち忘れず 続けてゆくことで
本当の願い 見つかるかもしれない

このやり方 あってるかな
精一杯の パフォーマンス
やり終えたら ほんの少しの
ことしかできなかった